



桑野市政2期目

4年間を示せ

良識のある、筑後市となせるか

問 この度の筑後市長選挙は市を二分する結果であった。残念なことに市の将来を決める大切な4年間の政策論ではなく、すでに決定された新幹線船小屋新駅の誤情報での不要論で二分になったとすれば、行政は市民に対し正しい情報と新幹線駅の役割と将来像を説明する必要があるのである。魅力ある筑後市づくりで財政健全化の外的施策として企業の誘致と定着、産業育成と人口計画、周辺自治体との連携等を築けるか。

市長 新幹線の駅設置についてはこれからの将来、筑後市を中心とする県南地域に大きな可能性をもたらすもので、時間の経過とともに間違いなく結果が出てくるものと確信する。この2年にわたる新幹線反対問題等々で周

田中 親彦
議員

議員

桑野市政4年間の軌跡の検証を

軌跡の検証を

緒方 幸治
議員

議員

辺自治体だが、「筑後は自分のことだけ、八女東部のことは考えていない」との不信感には、地域が自立をする県南の主要地域をつくっていききたい。

建設部長 駅建設事業費の市民に対する正しい情報は、事業内容によって補助の対応が決まるのでその都度広報紙で市負担額等を逐一事実として報告させて頂く。

変化の時代、市職員は意識改革で市民に勝れるか

問 魅力ある自治体づくりは市職員の意識改革が先にある。市長はふれあいの里づくりは市民の意識改革のための事業という。地域づくりは地域の

力であり地域の多くの人の参加をいかに図るかである。市民のその役割に、計画中の防災無線の活用を急ぎ考えられないか。

総務部長 全市を網羅する防災無線の設置を一応考えている。政策会議のなかで担当の総務課案で方向性を決めていただいた。平成18年度予算に入れ込めるか財源の査定状況による。



拡声器式の防災行政無線

問 地域づくり、安全安心の街づくりの現状は。

市長 これからの地域づくりはみんなの協力、一致協力したエネルギーがなければできない。

総務課長 安全・安心まちづくり事業が、北小校区に始まり、小学校・行政区単位で着々と立ち上がり、もう6ヶ所となっている。

社会教育課長 挨拶運動は毎月3校、市長や市の四役又、校区民会議等皆様が、校門の前に立ち、挨拶を投げかける運動であるが、年月がたつにつれ、定着と広がりを見せている。今では生徒や給食の調理員も一緒に実施しているところもある。

学校教育課長 補助教諭の配置については、一クラス30人以上の学級に非常勤補助教諭を設置、基礎学力の向上に努めている。

問 市長の4年間の振り返りについて感想を問う。

市長 改めていろんな事に

今後の施策は特に北部地区は

問 元気と活力みなぎる都市づくりを今後も推進して

チャレンジしてと思う。まだ芽が出てきたばかり。今後も水をやり、肥料を施して、市民が主役のまちづくりが広がることを大いに期待している。

ほしいが、市長のマニフェストには南西部の項目ばかりで北部はどうか。

市長 JA古川支所を第一弾として、地域住民主導で運営される介護予防拠点施設を市が整備費を負担してスタートする。北部でも、是非取り組んでいただくようにしたい。



羽犬塚小学校でのあいさつ運動